

つぎの文の（ ）にあてはまることば
を、あとの からえらび、かきましよう。

① はなちゃんは、とても（がまん強い）ので、
なかなかった。

② かれは、だれにでも（やさしい）。

③ 野きゅうのれんしゅうにいつも（まじめに）
とり組んでいる。

④ かれは、（元気な）だけに、よくあそぶ。

がまん強い まじめに

やさしい 元気な

国語
三一

第一学年及び第二学年の内容
いろいろな言葉③

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎの文の（ ）に当てはまることば

を、あとの

からえらび、書きましょう。

① お母さんがむかえに来てくれたので、
(あんしん) した。

② 大きく元気なあいさつに (かんしん) した。

③ おおぜいの人の前で話すのは、とても
(きんちよう) する。

④ 明日は、遠足なので (たのしみ) だ。

きんちよう
あんしん
たのしみ
かんしん

名前 なまえ

年 ねん

組 ぐみ

番 ばん

取り組んだ日

月

日

つぎのことばでつよくいうぶぶんを線で囲みましよう。

①



あめ

あめ

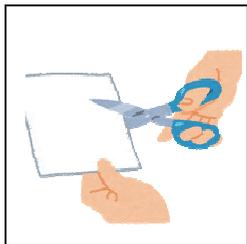
②



はし

はし

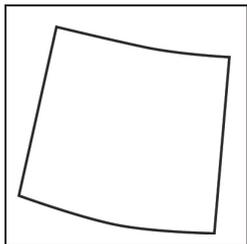
③



きる

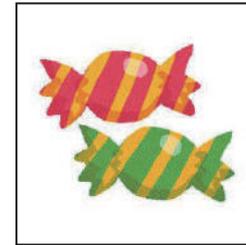
きる

④



しろ

しろ



つぎの文の ぶん _____ とはんたいのいみのことば

が (はい) に入ります。あてはまることばを、
あとの からえらび、 () にかき
ましょう。

① このノートは、たてよりも (よこ) のほう
が長い。 なが

② つくえは大きい おお が、いすは (ちい 小さい)。

③ このようふくの外 そと がわは、じみだが、 (うち 内)
がわは、はです。

④ この教室の上 うへ は音楽室で、 (した 下) は ざこうしつ 図書室だ。

下 した よこ 内 うち 小さい ちい

国語
六一一

第一学年及び第二学年
なかまの言葉

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

ことば

はい

ことば

つぎの言葉のグループに入る言葉を、あとの

ことば

せん

からえらび、その言葉を線でかこみ

ましよう。

くだもの

りんご

じゃがいも

ガム

ねこ

キヤベツ

からす

パイナップル

なす

バナナ

チョコレート

メロン

ねぎ

みかん

キヤラメル

あひる

名前

年

組

番

取り組んだ日
月 日

え ことば
つぎの絵にあう言葉になるように、しかくの中
にひらがなをかきましょう。

①



お

と

う

さん

②



お

か

あ

さん

③



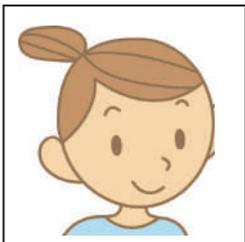
お

に

い

さん

④



お

ね

え

さん

名前

年

組

番

取り組んだ日

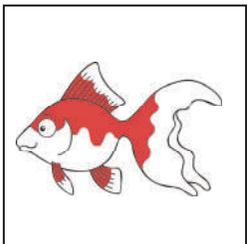
月

日

つぎの絵にえあう言葉になるように、四角の中にしかく

ひらがなをか書きましよう。

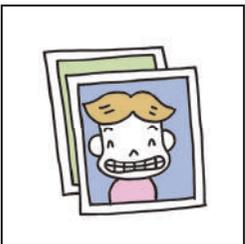
①



きんぎょ

よ

②



し

や

しん

③



き

ゆ

うき

ゆ

うし

や

④



び

よ

う

い

ん

名前

年

組

番

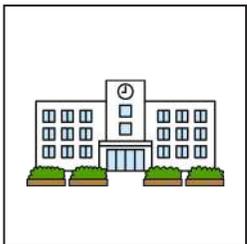
取り組んだ日

月

日

つぎの絵えにあう言葉になるように、しかくの中なかにひらがなをかきましょう。

①

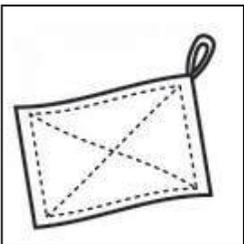


が



こう

②



ぞうき



③



は



ば

④



え



び

っ

つぎの文の^{ぶん}□に、「わ」と「は」のどちらかをかきましよう。

①

わ

たあめをたべる。

②

よしのさん

は

足が^{あし}はや

い。

③

わ

にが、かわに^{はい}入った。

④

そら

は

、^{あお}青い。

国語 十一	第一学年及び第二学年の内容 まる(。)			
		名前 なまえ	年 ねん	組 ぐみ
				番 ばん

とく
組んだ日
月 日

ぶんしょう

つぎの文章は、まる(。)(。をうっていません。

ただ

ばしよ

正しい場所にまる(。)(。をうちましよう。

にのみやそんとく

ひと し

二宮尊徳という人を知っていますか。

にのみやそんとく

ひと むら

二宮尊徳は、たかさんの人や村をたす

ひと

な にのみやきんじろう

けた人です。またの名を二宮金次郎とも

きんじろう

がっこう

いいました。金次郎のぞうが、学校にあ

ひと

るといふ人もいるでしよう。

国語 十二—一	第一学年及び第二学年の内容 てん(一)	名前	年	組	番
------------	------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日 月 日

ぶんしょう

つぎの文章は、てん(一)をうっていません。

ただ ばしよ

正しい場所にてん(一)をうちましよう。

そうげん

草原にねころんだ賢治は、夜空の星をな

けんじ

よぞら

ほし

がめました。

ざ

こと座、わし座、白鳥座。

ざ

はくちようざ

たの

せいざ

楽しい星座のせかいが、賢治の心に広

けんじ

こころ

ひろ

がりました。

国語 十三—一	第一学年及び第二学年の内容 かぎ(一) (二)	名前 なまえ	年 ねん	組 ぐみ	番 ばん
------------	----------------------------	-----------	---------	---------	---------

とく
り
組
んだ
日
月
日

つぎの文章は、かぎ(「(」をつかっています。正しい場所にかぎ(「(」をかきましよう。

はなし
てづか
おさむ
ちい

このお話は、手塚治の小さいころのできごとです。

かあ
あたま

「お母さん、頭がいたいよ。」

「だいじょうぶ、きつとよくなるからね。」

かあ
おさむ

お母さんは治のまくらもとで、やさし

こえ

く声をかけました。

つぎの文ぶんを読み、述語じゆつごに線せんをひきましよう。

①すすむくんが、かけていきました。

②はなごさんは、山やまの上うえにすんでいます。

③あたらしいようふくが、とどきました。

④小鳥ことりは、はばたきました。

⑤五年生ごねんせいのあねが、とても早くはやおきました。

国語 十五—一	第一学年及び第二学年の内容 「です」「ます」	名前	年	組	番
------------	---------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日 月 日

つぎの文ぶんししょうを「です」「ます」「でした」「ま
した」でおわる文ぶんししょうにかきなおしましょう。
かきなおしたいところところに——をひき、そのよこ
にかきなおしたことばをかきましよう。

つりました。

【れい】 さかな 魚をわった。

いました。

あるところに、おじいさんとおばあさんがいた。

こまっていたいました。

ふたりはたいそうこまっていた。それというのも

まん月のばんに、いつもおにたちがわるさをしに

くるからです。

くるからだ。